

2 - 7 東京観測及び関東南部観測の中間報告

On Boring of Deep Observation Well of Tokyo Micro-Earthquake Observatory and Observations on Anomalous Crustal Activity in South Kanto Area (Intercurrent Report)

防 災 セ ン タ ー

国 土 地 理 院

地 質 調 査 所

National Reserch Center
for Disaster Prevention
Geographical Survey
Institute
Geological Survey of
Japan

昭和 45 年度特調費による関東南部における異常地殻活動に関する特別研究について報告する。

1. 測地学的研究観測（国土地理院）として、房総半島の南端、鳥の頭状の地区について水準測量の路線と辺長測量の測線が新設され、そのほゞ中央部に横坑式の測地観測坑（館山地殻活動観測場）が完成した。

設置された主な機器は次のとおり：水管傾斜計 30m 2 成分，水晶管式伸縮計 30m 3 成分，TEM 型傾斜計 2 成分，フロート型水管傾斜計 1 成分，地震計 上下動 1 成分。

掘削直後のため調整しつつ観測を行なっている。なお，地質調査所による弾性波速度の観測も（71.3）行なった。

2. 活断層と延命寺断層の研究と観測（地質調査所）について：活断層の調査は年度内に完了した。房総半島南半分は，その北側とまったく対象的で，地質構造が著しく複雑でその調査に大変苦勞した。地表と空中写真の調査から特徴ある活構造の地形が幾つも見出され，新第三紀以来当地方が活動していることが知られた。

延命寺断層には，その活動をみるための強固な観測坑（コンクリート）を作り，相互の位置の観測を終った。

3. 傾動運動等の観測（防災センター）を行なうため房総半島でもっとも顕著で，また，国土地理院の水準測量の結果，これはあたかも蝶番のようにして互に傾動している。断層の両側の地塊に感度 5 / 100" の傾斜計による観測井を作った。なお傾斜計は地震研究所の御好意により，鋸山観測所坑内において検定と比較観測を行なわしてもらっている。また，活断層附近の微小

な地震を観測するため、嶺岡と岩井（断層北側）及び館山の観測坑内に地震計を設置した。後2者は坑内または観測井内に上下動地震計を1成分併置したが、嶺岡では房総半島でもっとも古いといわれている嶺岡層群の中に愛宕山の麓で、3成分観測用の観測井を設けた。嶺岡では倍率を13万倍（10Hz）程度に上げられたが、フィルターなどでさらに倍率を高めることを試みている。館山ではノイズが多く、倍率を高めることに苦心している。

これら総合研究の成果は防災センターで印刷し、地震予知関係に提供することとなっている。

〔附〕 岩槻の深層観測井工事は2月25日から掘進をはじめ、年度末に深度2600mに達した。その後検層とケーシング挿入とセメンチングを終り、以深の掘進をすすめている。地層状況は1600m位までは3km北の春日部GS1とよく合っているが、それ以深はまったく合っていない。
（高橋 博）

